

JIS

化学製品の水分測定方法

JIS K 0068 : 2001

(JCIA/JSA)

(2006 確認)

平成 13 年 4 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

まえがき

この規格は、工業標準化法第14条によって準用する第12条第1項の規定に基づき、社団法人日本化学工業協会(JCIA)/財団法人日本規格協会(JSA)から工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきと申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本工業規格である。これによって、JIS K 0068 : 1992は改正され、この規格に置き換えられる。

この規格の一部が、技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任はもたない。

主務大臣：経済産業大臣 制定：昭和 41. 8. 1 改正：平成 13. 4. 20

官報公示：平成 13. 4. 20

原案作成者：社団法人日本化学工業協会（〒100-0013 東京都千代田区霞ヶ関3丁目2-4 TEL 03-3580-1872）

財団法人日本規格協会（〒107-8440 東京都港区赤坂4丁目1-24 TEL 03-5770-1573）

審議部会：日本工業標準調査会 化学部会（部会長 三田 達）

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省 産業技術環境局標準課 産業基盤標準化推進室〔〒100-8901 東京都千代田区霞が関1丁目3-1 TEL 03-3501-1511(代表)〕にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

化学製品の水分測定方法

K 0068 : 2001

Test methods for water content of chemical products

序文 この規格は、1978年に第1版として発行されたISO 760, Determination of water—Karl Fischer method (General method)を元に作成した日本工業規格であるが、国際規格では古典的な容量滴定によるカールフィッシャー法のみを規定し、市場の実態にあわないため、日本工業規格として必要な方法(電量滴定法によるカールフィッシャー法、乾燥減量法、蒸留法など)を追加し、及び試薬などについて国際規格の技術的内容を変更して作成している。

1. 適用範囲 この規格は、固体又は液体の化学製品の水分を測定するための一般的な方法について規定する。

備考1. 化学製品は、化学反応によって生成する物質全般を指すが、個別の製品又は製品群についての規格において、この規格と異なる試験方法が規定されている場合には、その規格に規定する方法による。

2. 化学製品には、揮発性、爆発性、放射性などが強いために、この規格を用いるとき試験の安全を確保できないものもある。この規格に規定する方法は一般的な方法であり、あらかじめ安全性を十分に確認できるものに適用する。

3. この規格の対応国際規格を、次に示す。

なお、対応の程度を示す記号は、ISO/IEC Guide 21に基づき、IDT(一致している)、MOD(修正している)、NEQ(同等でない)とする。

ISO 760 : 1978 Determination of water—Karl Fischer method (General method) (NEQ)

2. 引用規格 付表1に示す規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版(追補を含む。)を適用する。

3. 定義 この規格で用いる主な用語の定義は、JIS K 0211及びJIS K 0213によるほか、次による。

a) 力価 カールフィッシャー試薬を用いて水を滴定するとき、カールフィッシャー試薬の単位体積当たりの水の当量。mg/mlで表す。

4. 共通事項 測定に共通する事項は、JIS K 0050とし、数値の丸め方はJIS Z 8401による。カールフィッシャー滴定法に共通する事項は、JIS K 0113による。

5. 測定方法の種類 測定方法の種類は、次による。

a) カールフィッシャー滴定法

1) 容量滴定法

2) 電量滴定法

3) 水分気化—容量滴定法、又は水分気化—電量滴定法

b) 乾燥減量法

c) 蒸留法